

注意

前年度の入試情報となります。
新しい情報は随時公開いたします。

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
経営学部

2024

Faculty of

Business
Administration



Surviving Change

ダイナミックに変化する社会を
強く生き抜く人へ

社会や企業はダイナミックに変化しています。経営学部では、それらに対応できる能力を伸ばすことを重視してきました。問題に直面したとき、知識による解決方法を示すだけでなく、実際の成果につながる能力を身につけるために、インターンシップやPBLによる企業とのタイアップなど、課題解決につながる力の育成に力を入れています。

経営コース

組織をリードするモデル

市場と情報を活用するモデル

世界へ羽ばたくモデル

会計コース

公認会計士・税理士、
企業の財務・経理担当者
をめざす

進路にあわせて
コースを選択

学部共通コース

国際関係コース
英語コミュニケーションコース
スポーツサイエンスコース
環境サイエンスコース

藤岡ゼミ

現場のリアルな声を聞いて現状を理解し その解決策を考えていく

地方の過疎化や産業衰退など、現代社会の諸問題は自分とどこかでつながっています。

将来、自分が解決すべき課題として現れる可能性もあります。

藤岡ゼミでは、これらの問題に対して、一人ひとりが積極的に関わっていきます。

現地に足を運び アクティブな活動を展開

ゼミではマーケティングの基礎から実践的に学びます。少人数のチームに分かれて商品開発や販売などさまざまな活動に取り組んでいます。時には、青森や和歌山、東京などに足を延ばすこともある、とてもアクティブなゼミです。現在は、「マーケティングを通じて産地と消費地をつなぎ社会に変化を起こす」をテーマに、「ぶどう山椒の発祥地を未来へつなぐプロジェクト」をすすめています。農家の減少、若年層の農家離れなどにより、農業の継承が難しい状況にあるぶどう山椒の栽培地、和歌山県有田川町を訪れ、労働人口の減少、その土地固有の伝統的文化的継承といった問題解決の糸口を探るのがこのプロジェクトの目的です。

地道な取り組みが 大きな成果につながっていく

ゼミでは、課題の解決に向けてどのような行動を取るべきなのかを考えます。農家の方から直接お話を聞くことで、社会課題に対する学び

には、現場における実情の把握が欠かせないと感じました。また、私たちの取り組みを現地の方々に発表する場では、さまざまな意見やアイデアをいただき、自分たちに今何ができるかを考えるきっかけにもなりました。社会課題の解決には、こうした地道なアプローチの継続が重要で、一人ひとりの小さな行動の積み重ねが大きな結果につながると考えます。このプロジェクトに関わってくださる企業や消費者が年々増えているのも、先輩たちや私たちがこれまで取り組んできた成果といえるでしょう。

社会が抱える課題を 自分ごととしてとらえる

社会課題は決して他人事ではなく、人間が生きていくうえで、必ず関わってくる重要な問題です。私たち一人ひとりが自分ごととしてとらえ、真剣に考えていくことで、解決の糸口が見つかるかも知れません。実際に現地に足を運んで自分たちで課題を発見し、解決策を考え抜いた経験により、物事をより深く考える姿勢が身につきました。今後もこの姿勢を忘れず、身近な問題に目を向けていければと思います。



Mayuko Harada

原田 真友子さん

4年生

(島根県立松江商業高等学校 出身)

ICTを活用して課題を発見 グループワークで解決へと導く

「組織におけるICT活用を考える～Webコンテンツと人・組織の関係～」というゼミのテーマに沿って、グループ単位で活動し、チーム内でもPDCAサイクルやOODAループを活用した研究をすすめています。グループワークでは、学内におけるICT問題に焦点を当て、実際に私たち自身がICTツールを活用しながらログデータなどのデータを集積していきます。そして、集めたデータを分析して課題や改善点を見つけ出し、最終的に自分たちが発見した課題の解決をめざします。

自分たちが直面した課題に対して 学生目線から解決策を模索する

本学では、多くの場所やコンテンツでICTが用いられています。それを実際に利用するなかで、私たちはいくつかの問題にぶつかりました。例えば、情報の発信源の混在です。この問題をこのままにしておくと、情報の見逃しや情報の複雑化による閲覧数の低下などが懸念されます。そういった問題に対し、私たちは

情報収集ツールとして10代から20代の若者の多くが利用するTwitterに着目しました。学生目線で情報の取捨選択を行い、閲覧者へ最低限の情報を発信することが解決につながると思ったのです。最適な情報発信とともに閲覧数増加と認知度アップのため、ターゲットへのアプローチ方法も研究しています。情報があふれる時代、的確な情報収集やターゲットに沿った発信方法を考え抜いたこの経験は社会に出て必ず活かせると思います。

円滑な情報発信の鍵を握るのは 「1+1≥2」のチーム力

情報を発信する場合、受け手のニーズだけでなく、読みやすさや見やすさ、理解しやすさを心がけ、スムーズに発信する必要があります。そのためにはまず、チーム活動を円滑にすすめなければなりません。時には行き詰まり、活動が停滞する事態もありながら、チームの分析・改善まで行いう力を養えたのは大きな収穫です。1人から2人、3人と人数が増えるごとに、「1+1≥2」となるチーム力の大切さを学びました。



Kou Omori

大森 航さん

3年生

(滋賀県立草津東高等学校 出身)



西岡ゼミ

学内におけるICT問題に焦点を当て 改善・解決に導く手立てを考える

社会課題の解決に役立つ情報通信技術であるICT (Information and Communication Technology) も、実際に利用していると問題点が浮上してきます。

そんなICTを実際に活用し、自分たちが直面した問題に対する解決策を考えていきます。



濱田ゼミ

企業を分析する会計知識とともに、 コミュニケーション能力を身につける

長年、企業が従業員に求める能力の上位に、コミュニケーション能力が挙げられます。

濱田ゼミでは、財務諸表を読み解く能力を身につけるとともに、
周囲の人たちと協調してチームワークで課題解決に当たる能力も高めることができます。

財務諸表から企業の「今」と 「未来」を読み解いていく

濱田ゼミでは、「今どのような企業が利益を上げているか」「これからどのような企業が成長するのか」などを、各企業の財務諸表および関連データに基づき、分析を行います。授業としてのゼミだけでなく、学生だけで会議を開くサブゼミが週2回以上も設けられていて、分析した結果をチーム内で共有しながらお互いの考えを深めていきます。企業についての情報収集や分析内容のまとめ、さらに発表のストーリーを創造するなど、すべてを自分たちで考えてつくり上げていくのが大きな特徴です。

定期的な事後評価で、お互いの 改善点や目標が明らかになる

濱田ゼミでは、定期的に活動の振り返りの機会を設け、各自が身につけた能力と課題点をお互いに発見、確認、分析します。こうすることで、一人ひとりが自分の足りない部分に気づき、改善に向けて行動に移せるようになります。さらに、こうした取り組みをとおして、

社会人の基礎力ともいえるコミュニケーション能力の向上も期待できます。ゼミでは社会人に必要とされるコミュニケーション能力を、発信力・傾聴力・統合力と考え、サブゼミの際の話す・聞く・意見を統合するといった行動をもとにお互いに評価し合います。

ゼミ会議の経験を積み重ねて、 確かな成長を実感できた

サブゼミでは、会議での発言力と傾聴力の両方が必要とされます。私自身、最初は発言するだけで、相手の意見を聞き、まとめることはあまり得意ではありませんでした。しかし、定期的にサブゼミに出席するなかで改善すべき点や目標が明らかになり、チームで協力し合うことで徐々に改善できました。財務諸表の見方にも変化が表れました。以前は断片的な情報しか読み取れませんが、今では企業が伸びている要因を探るなど、データをもとにしてより深い部分まで読み取り、考えられるようになりました。



Ryunosuke Ohno

大野 琉之介さん

3年生

(兵庫県立小野高等学校 出身)

チームワークを駆使し 独創的な企画の構築にチャレンジ

ゼミでは、新奇性のある企画の構築力を体験的に修得することを目標に掲げています。チーム単位で、個人ワークと会議を繰り返し企画の構築をめざします。これまでにない企画をつくり出すためには、分散している情報をチームで集約・共有し、それらを組み替える力が要求されます。こうした取り組みをとおして、私たちが本来持つ責任感・発信力・傾聴力・創造力など8つの特性のうちどれを発揮すべきかを学び、さらに自分に不足している特性に気づき伸ばすことが可能です。

企業で活躍するために 必要な能力の向上をめざす

大学以前の教育では、個人能力の養成が重視され、企業などで活躍するのに必要な組織能力の養成はあまり行われません。その結果、学生が必要と考えるスキルと、企業が学生に求めるスキルに差が生じています。私たちのチームは、1ヶ月ごとに新奇性のある企画を生み出す特殊なプログラムを実践的

に学び、この問題の解決をめざしています。チームで企画を構築するためには、与えられたタスクをやり切る能力、情報を正確に伝え相手の考えを理解する能力、異なる意見をつなげて一つにするコミュニケーション能力が求められます。毎月、特殊なプログラムを遂行していくことで、徐々に企業が従業員に求める能力が養われます。

チーム活動への参加で コミュニケーション力の重要性を実感

ゼミでのさまざまな取り組みを経験し、チーム活動における本当の意味でのコミュニケーション能力の重要性を実感できました。プログラムに参加した当初に感じていた自分の意見を伝えることへの苦手意識も払拭されました。通常なら、社会に出て組織で働くために必要とされる能力を、ゼミ活動をとおして学生の中に養えたのは大きな収穫です。卒業後は学生時代に培った能力を発揮して、組織のパフォーマンス向上に貢献したいと考えています。



Airi Masuda

増田 愛梨さん

3年生
(滋賀県 光泉高等学校* 出身)
※現・光泉カトリック高等学校

坂本ゼミ

実践的な経験から コミュニケーション能力の必要性を学ぶ

個人では難しくても、チームとして取り組むことで高い成果を生み出すことができます。毎月、チームで企画を考える実践的な体験をとおして、企業などの組織で求められるコミュニケーション能力を磨きます。

Hot Topics

経営学部の取り組み

1 合同型演習

3年生が低年次生のゼミに入りコーチングを行うことで、管理活動を体験します。また、就職活動に必要な「社会人基礎力」の養成もめざします。合同型演習は、経営学部のゼミ共通コンセプトである「マネジメント能力」の養成のため、ゼミの運営方式をプログラム化して、どういう能力がチームのパフォーマンスを向上させるかを体験・獲得することにフォーカスした演習です。



2 東洋大学相互学生交流プログラム

経営学部では、1999年から東京にある東洋大学経営学部との間で単位互換のための相互学生交流プログラム (Inter College Academic Alliance Program) を実施しています。東京と京都という文化的、地理的風土を全く異にする他地域・他大学で学ぶことにより、幅広い視点からの学修が可能になり、多様で新鮮な経験を積む機会を得ることを目的としたものです。東洋大学への派遣期間は半年と1年間のプログラムがあり、他大学で学修ができる貴重なプログラムです。



Student's Voice

私は、半年間のプログラムに参加しました。東洋大学で学びながら東京で暮らすなかで、龍谷大学以外の学修環境や、京都の文化とは異なる魅力を体感できました。両大学・両地域それぞれ異なる環境で学ぶことができたこの経験は、進路を選択する際にも役立つと感じています。普段とは異なる環境に身を置くことの大切さを学ぶことができました。

宋 京翰さん 3年生 (中国 萊陽市第一中学 出身)

3 現代中国のビジネス

「現代中国のビジネス」は、事前学修・現地学修・事後学修で構成されているプログラムで、現地では企業視察を行い日本と中国のビジネスを比較・考察します。中国・大連市での8日間の現地学修が組み込まれているところが本講義の特徴です。現地学修では、大連外国語大学の学生がチームに参加し、日系企業を訪問してプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションの構築、チームワークの難しさなどを体験しながら日本と中国のビジネスについて学びます。



Student's Voice

初めて日本人の学生とチームを組んで、チームワークの大切さを学びました。学修面では、経営に関する知識を学んで活用し、龍谷大学経営学部の「生きた経営」を学ぶことができました。生活面では、中国の「衣食住行」を日本人の学生に体験してもらいながら、異文化コミュニケーションを図ることができ、とても貴重な経験でした。

王 萌さん 経営学研究科 修士課程 2022年修了 (大連外国語大学 出身)



Student's Voice

このプログラムに参加した理由は、経済大国となった中国を生で見てみたいと思ったからです。今まで関わったことのない人とのグループワークを通じて意見を発信したり、これまでの自分になかった発想や着眼点をメンバーから吸収したりできました。後の学生生活や就職活動での自己表現に、大きな広がりをもたらしてくれたと実感しています。

谷村 直樹さん 2022年卒業 (大阪府 金光八尾高等学校 出身)

4-Year Studies



4年間で何を学ぶ？

広範なテーマへの多彩なアプローチを段階的に
学修し企業経営の実践を担う人材へ

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
4年間の流れ	基礎を しっかり身につける		自分にぴったりの コースを選択		社会を見る目を じっくり鍛える		これまでの経験を 卒業論文にまとめる	
ゼミでの学び	基礎的 ←		演習		演習		→ 専門的	
	<p>フレッシュヤーズゼミ</p> <p>▲1クラス約20名でレポート作成やディスカッション、プレゼンテーション方法など、大学生としての基本をマスターします。</p>		<p>基礎演習</p> <p>ここでは学生それぞれの興味に従って学修するテーマを選定します。そしてその学修に必要な意識や課題発見能力、課題解決能力、文章表現能力、口頭発表能力などを培い、具体的な学びの下地をつくります。</p>		<p>演習</p> <p>経営学を幅広く学んでから、自分の関心のある研究テーマに取り組んでいるゼミを選択します。2年間かけて、グループワークやプレゼンテーション、合宿などで学びを深めます。</p>		<p>応用演習</p> <p>◀「合同型演習」を行うゼミは、3年生後期に通常の「演習」に加えて「応用演習」も学修します。下級生ゼミのチームに上級生が「管理活動(コーチング)」を展開。また、合同型演習は、個別の専門知識に加え、就職後に必要な「社会人基礎力」の養成もめざします。</p>	
コースの学び			<p>経営コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織をリードするモデル 市場と情報を活用するモデル 世界へ羽ばたくモデル 		<p>会計コース</p>		<p>学部共通コース</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際関係コース 英語コミュニケーションコース スポーツサイエンスコース 環境サイエンスコース 	

[取得可能な免許・資格]

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(地理歴史、公民、商業)
- 図書館司書

- 学校図書館司書教諭
- 本願寺派教師資格(受験資格)

[めざす職業・進路]

- 企業(製造業、商社、金融、情報、卸売業、小売業)
- 起業家、税理士、公認会計士、ファイナンシャル・プランナー

- 公務員(地方・国家)、NPO/NGO
- 教員(中学校、高等学校)、司書教諭

Seminars

教員・
スタッフ紹介



ゼミ紹介

経営学科 梶脇 裕二ゼミ

ベストセラーを題材に経営理論を修得する



理論に基づく実践で
地域格差問題にアプローチ

大前 真悠さん
4年生(岐阜県立益田清風高等学校 出身)

私のゼミでは『世界標準の経営理論』を題材に各理論を読み解き、実践的に経営理論の修得をめざします。学生同士の発表をはじめ、中小企業懸賞論文の応募に向けた論文執筆や現地視察などのアウトプットをおして経営理論への理解が深まり、現実の課題解決につながる経営理論の活用法も考察できました。卒業論文では、以前から気になっていた地域格差問題を取り上げ、ソーシャルキャピタルという点から問題の解決策を探りました。



経営学科 井手 健二ゼミ

財務諸表を学び、株式銘柄の選定に活用する



会計の本質を理解し
株式ポートフォリオを作成

杉谷 真依子さん
3年生(大阪府立今宮高等学校 出身)

財務諸表の基礎を学んでから実際に株式ポートフォリオを作成し、約半年かけて日本経済新聞社主催の「日経STOCKリーグ」に向けたレポートをつくります。財務諸表を用いた調査や株式銘柄の選定を行うなかで実践的に会計知識が身につく、多くの企業情報を調べることで視野も広がりました。卒業論文ではリーグでの反省点を踏まえたオリジナルのポートフォリオを作成します。学びの集大成となる完成度の高いレポートになると確信しています。



[ゼミで扱う学びのテーマ(例)]

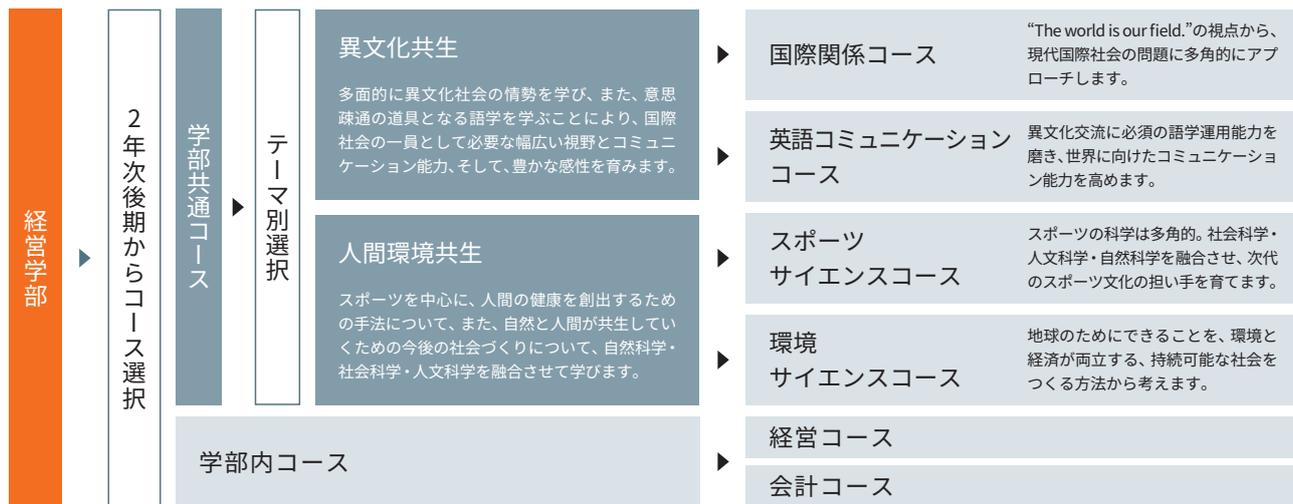
- AIがもたらす近未来の労働市場
- IFRSの沿革に関する研究
- Instagramのアーカイブ投稿における若者の消費者心理
- Webサイトによる組織のPR可能性
- キャッシュ・フロー計算書の基礎知識に基づく作成方法
- コロナ禍における飲食業界の現状と課題
- コロナ禍における働き方の変化と新たな人材管理のあり方について
- コンテンツマーケティング戦略の比較分析
- サステナビリティに取り組むアパレル産業の戦略と課題
- ソーシャルキャピタルの地域格差に関する考察
- 日本の中小企業会計が抱える課題
- ファッション業界における偽造問題の克服を目指して
- プレイヤー・管理者の人間特性がチームの創造的な企画構築に与える影響
- 会計基準に関する国際比較
- 金融DXに関連する株式ポートフォリオについて
- 今後必要とされる企業経営におけるイノベーションのあり方
- 社会福祉の市場化に関する歴史的考察
- 人口減少社会における価値創造戦略
- 地域発展のための最適なブランディング提案とは
- 日本企業におけるSDGsの取り組み

Viewpoints

学部共通コースの紹介

学部共通コースについて

経営学部独自のカリキュラムを学修する一方で、学部の枠組みを超え、自らの興味・関心に基づき、あるいは自分の将来の進路に照準をあわせた講義を、系統的かつ重点的に受けられるように「学部共通コース」を開設しています。



英語コミュニケーションコース



ホワイト・ショーン・アラン 准教授
[主な担当講義] Oral Communication
Global Understanding in English

実践的な英語を学び、 世界への扉を開こう

英語コミュニケーションコースの科目をとおして、実際に世界の人々とコミュニケーションがとれる「生きた」英語運用能力が育ちます。必修科目の「Oral Communication」は、集中的・少人数授業で必要なリスニングとスピーキングの力を養います。次に「Global Understanding in English」ではビデオ会議システムをつかった授業を行い、アメリカ・ペルー・中国・ロシアなど、日本との関わりが深い国の学生たちと英語でディスカッションしたり、一緒に発表したりします。そのため、日本にしながらグローバルな環境で英語力を鍛えることができます。



スポーツサイエンスコース



松永 敬子 教授
[主な担当講義] スポーツマネジメント論

スポーツを多面的に学び、 スポーツの価値を高めよう

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、人々の生活を豊かにする文化でもあります。スポーツサイエンスコースでは、学部での学びを基礎としながら、スポーツを取り巻く社会状況をはじめ、健康的な生活実践法やアスリートのためのトレーニング方法など幅広い教養と専門的知識・技能を習得し、スポーツ関連諸分野で活躍できる能力を養成します。また、経営学部に関連の深い科目には、スポーツマネジメント論やスポーツマーケティング論などがあり、演習（ゼミ）においても学びを深め、実践力を身につけることもできる魅力的なコースです。



Life after Graduation



Graduate's Interview

株式会社 関西みらい銀行

営業統括部 勤務

Mayu Mizumoto

水本 真由さん

2017年卒業
(大阪府立香里丘高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

ゼミでは「チームパフォーマンス」をテーマに、その向上方法や改善策、最大限発揮するために必要な要素について研究していました。みんなで意見交換をしながら実践的に試行錯誤を重ねるなかで、自分のイメージを相手と共有する難しさや意図を正しく伝える重要性を学ぶと同時に、社会で通用する協働力やコミュニケーション力も身につきました。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

ゼミで修得した協働力は「周りと力を合わせる」姿勢につながり、自社の銀行アプリに関する企画業務を行ううえで役立っていると感じます。企画は多くの人と協力して進行する必要があり、情報伝達やイメージ共有の重要性を実践的に学んだ経験は、日々の仕事でも大きな強みとなっています。今後も企画力の養成に努め、成長を重ねていきたいです。

My Background



大学1・2年生

入学してからは何もかもが新鮮で、毎日がとても楽しかったです。バドミントンサークルでは、競技未経験ながら副会長に就任。活動を通じて仲間との友情を育みました。



大学3年生

後輩への指導を通じてさまざまな見方ができるようになり、自身の学びも深まったように思います。いっそうゼミ活動や研究にのめり込むきっかけにもなりました。



大学4年生

これまでのゼミ活動で得たものをすべて出し切り、卒業論文を書き上げました。4年間の学びの成果を目に見える形で残せた経験は、私の大きな自信になっています。



現在

銀行の堅いイメージを覆すほどのおもしろい企画を考案・実行するのが目標。日々アンテナを張ってアイデアを生み出し、どんどん行動に移して自社を盛り上げていきたいです。



Graduate's Interview

京セラ株式会社

資材本部 資材管理部 勤務

Shigehiro Ishiwatarito

石渡 繁裕さん

2016年卒業
(静岡県 静岡学園高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

会計学のゼミ活動に注力し、財務分析をとおして、会計の仕組みについて理解を深めました。会計の問題発見から解決への過程を論理的かつ簡潔にまとめ、最終的にプレゼンテーションした経験は、ものごとを体系立てて考える思考力の構築につながったと思います。ゼミのメンバーと同じ目的に向けて行動するなかで、組織の動かし方も学べました。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

京セラ唯一の調達部隊である資材部に所属し、法律や会計、システムといった専門性の高い業務に携わっています。会計学の知識が活かされているのはもちろん、関連部署との連携が求められる職場では、チームで一つのものをつくりあげたゼミの経験が大いに役立っています。全体最適を意識することで、組織の問題をスピーディーに解決できました。

My Background



大学1・2年生

1年次の春休みを利用して、大学の短期留学プログラムに参加。現地大学生との交流で刺激を受け、資格の勉強やボランティア活動などに積極的にチャレンジしました。



大学3年生

濱田ゼミに所属して会計学を研究。ゼミの仲間と日々切磋琢磨しながら全国規模の研究プレゼン大会に出場し、上位入賞を果たした経験は、一生忘れられない思い出です。



大学4年生

卒業論文をしっかりと完成させてから、仲間と一緒にアメリカ横断旅行を決行。ヨーロッパへの一人旅も実現させ、最後の最後まで学生生活を謳歌しました。



現在

運用・システムの構築により、調達業務の効率化を図っています。現状に満足せず、常に自己成長を続け、世界的な企業の一員として社会に貢献したいと思っています。

Life after Graduation



Graduate's Interview

有限責任 あずさ監査法人

大阪第2統括事業部 勤務
(公認会計士)

Shoma Izumi

和泉 翔馬さん

2019年卒業
(滋賀県立八幡商業高等学校 出身)

Q. 大学時代にはどのようなことに取り組んでいましたか？

会計科目に特化した会計コースで専門性を高め、会社法や金融商品取引法、法人税法といった法律・税に関する専門知識も修得しました。また、ゼミでも会計を専攻テーマとし、ゼミ生同士で会計論点に関するディベートを繰り返しながら、論理的な思考力を鍛えました。相手に対して自分の意見や考え方を的確に伝える術も身についたと感じます。

Q. 大学での学びは現在の仕事にどう活かされていますか？

公認会計士として、上場企業の財務諸表監査を担当しています。会計監査を行うには、企業が毎日行っている取引をどのように会計処理すべきか理解しているのが大前提で、クライアントからの相談に応じる際には、論理的かつ明確な説明が欠かせません。在学中に得た会計知識はもちろん、ディベート経験が日々の業務で活かしていると感じます。

My Background



大学1・2年生

夏季のオープンキャンパスで、友人とともに学部説明会のプレゼンターを担当。準備に時間を割かれ苦労した分、多くの高校生が来場する大盛況ぶりに感激しました。



大学3年生

経営学部ゼミナール連合会に所属し、今も交流が続く仲間に出会えました。大学時代を振り返っても、彼らと一緒に過ごした楽しい思い出ばかりが浮かびます。



大学4年生

公認会計士試験に合格し、たいへんお世話になった経営学部スタッフの方と記念撮影をしました。学生のうちに無事合格できたのは手厚いサポートのおかげだと、今も感謝しています。



現在

企業を取り巻く環境が大きく変化する社会で、私たち公認会計士の活躍の場は広がっています。海外駐在やアドバイザリー業務などの経験を積み、社会に貢献していきたいです。

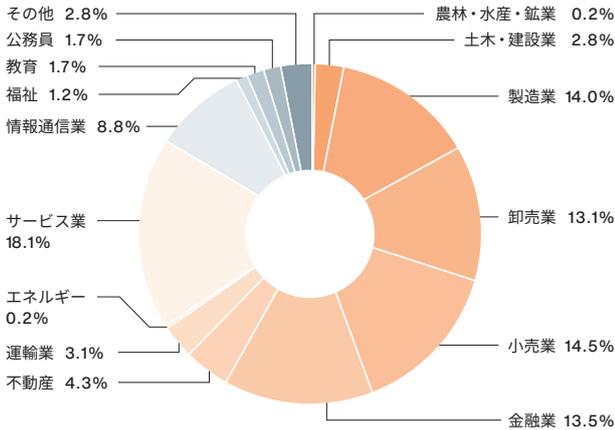
Careers



経営学部の就職

就職状況 (2021年度卒業生)

経営学科



[主な就職先]

- 住友林業株式会社
- 積水ハウス株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- タカスタンダード株式会社
- 凸版印刷株式会社
- 三菱自動車工業株式会社
- 山崎製パン株式会社
- 富士フイルムビジネスソリューションジャパン株式会社
- リコージャパン株式会社
- イオンリテール株式会社
- 株式会社コスモス薬品
- 株式会社セブン-イレブン・ジャパン
- 株式会社ファミリーマート
- 株式会社良品計画
- あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
- 岡三証券株式会社
- 株式会社関西みらい銀行
- 株式会社京都銀行
- 京都中央信用金庫
- 住友生命保険相互会社
- 第一生命保険株式会社
- 大樹生命保険株式会社
- 東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社
- みずほ証券株式会社
- 佐川急便株式会社
- 東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)
- 日本郵便株式会社
- 関西電力株式会社
- アクセンチュア株式会社
- クラブツーリズム株式会社
- 総合警備保障株式会社 (ALSOK)
- 東武トップツアーズ株式会社
- 株式会社マイナビ
- 財務省
- 防衛省
- 国税庁
- 株式会社京都銀行
- 滋賀県庁
- 高槻市役所 など

※主な就職先は業種順に記載



株式会社 村田製作所 内定

職業会計人に必要な専門知識や論理的思考力はもちろん、ゼミ内のディベートやプレゼンテーションを通じて主体性も培われました。学修の成果である簿記二級の取得は、就職活動でも強みとなりました。経理財務をとおして組織の経営を支え、事業と未来の創造に貢献したいです。

尾江 若菜さん
4年生
(京都府立洛北高等学校 出身)



法務省出入国在留管理庁 大阪出入国在留管理局 内定

フィールドワークが多い授業では、体験して考える大切さを学べたのが良かったです。語学研修や学内の公務員講座なども活用して、4年間で大きく成長できたと思います。世界情勢が大きく関わる専門性の高い業務だからこそ、積極的な学びの姿勢は今後も活かされると確信しています。

山本 梨花さん
4年生
(大阪府 初芝富田林高等学校 出身)



YKK AP 株式会社 内定

企業構成や商品開発・流通について学んでいくうちに、企業は生産体制を整えて品質の維持に努めるだけでなく、社会問題にも目を向けるべきだと考えるようになり、企業選びの軸としても重視しました。人の人生や社会を豊かにする仕事をとおして、自分もさらに成長を重ねていきたいです。

杉野 圭祐さん
4年生
(大阪府立枚方高等学校 出身)



株式会社京都銀行 内定

ゼミでは革新的な企画立案のための手法を学び、学生同士の会議などの実践を通じて自分でも成長を感じるほど発信力が向上しました。就職活動でも積極的な姿勢が評価され、大きな自信につながりました。顧客にあわせた最適な提案ができる、法人営業のスペシャリストをめざします。

鵜飼 大智さん
4年生
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一歩を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 経営学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。

深草キャンパス

京都市伏見区深草塚本町 67
Tel 075-645-7895
biz@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫
から好アクセス

JR大阪駅 → 約42分
京阪京橋駅 → 約41分
近鉄奈良駅 → 約43分
JR三ノ宮駅 → 約63分



<https://www.biz.ryukoku.ac.jp>

